

戦時中に供出 乃木大将夫人像



乃木夫人銅像建立に向け、募金を呼び掛ける関係者ら
=鹿児島市

太平洋戦争末期に軍事資材として供出された乃木静子の銅像（鹿児島市新屋敷町）の復元を目指す「乃木静子夫人奉賛会」が15日、募金活動を始めた。来年夏ごろまでに1千万円を集め、11月に建立式を行う予定。

来秋復元へ募金開始

奉賛会、当時の写真確認

また供出から70年ほどがたち當時の姿が不明だったが、このほど奉賛会に寄せられた写真で、六角形の屋根に覆われた座像だったことが確認された。

私立鶴嶺高等女学校（鹿児島玉龍高校の前身）の卒業アルバムに載っていた銅像写真を提供したのは、同市星ヶ峯4丁目の松元綾児さん（91）。当時、銅像を見たことも覚えており、「十二単を着て、

髪はおすべらかし。ひな人形のように座つていた。復元されればぜひ見に行きたい」と話した。

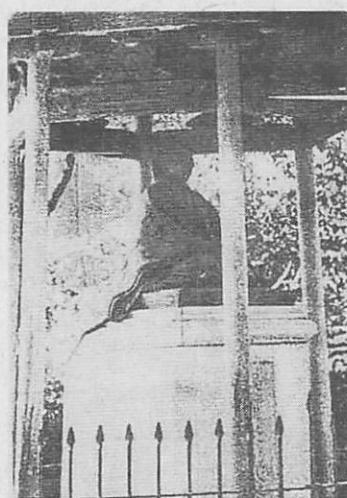
15日についた天文館での街頭募金活動では、平瀬葉子会長（59）は、平瀬葉子会長（59）や周辺の町内会長ら奉

賛会のメンバーら約25人が、買い物客らにチラシを配った。

1859（安政6年11月、塩屋村（現・新屋敷町）で生まれた99（226）745

活躍で知られる陸軍大将乃木希典の妻。1912（大正元）年、明治天皇の崩御により夫と共に自刃。良妻賢母で、女性のかがみとされた。銅像は19（大正8）年に建てられた。

平瀬会長は「現代と価値観は違うが、鹿児島で培った心の強さを持った女性がいた史実を伝えていきたい」と話した。同奉賛会は10月10日（江口淳司）



松元綾児さんが提供した乃木静子の銅像写真